



平成24年11月13日

各 位

会社名 神姫バス株式会社  
代表者名 取締役社長 上杉雅彦  
(コード9083 大証第2部)  
問合せ先 企画部長 永井勝浩  
(TEL : 079-223-1243)

(訂正・数値データ修正あり)

「平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

平成24年2月9日に発表いたしました「平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」につきまして、一部訂正がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

訂正理由につきましては、本日開示の「過年度決算短信等の訂正に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、訂正箇所が多数に及ぶため、訂正前及び訂正後の全文をそれぞれ添付し、訂正箇所には下線を付して表示しております。

以 上

(訂正後)



## 平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月9日

上場会社名 神姫バス株式会社 上場取引所 大  
コード番号 9083 URL <http://www.shinkibus.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上杉 雅彦 (TEL) 079 (223) 1243  
問合せ先責任者 (役職名) 企画部長 (氏名) 永井 勝浩  
四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日 配当支払開始予定日 -  
四半期決算補足説明資料作成の有無: 無  
四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	30,030	△1.6	1,071	△3.8	1,179	△2.1	561	△34.6
23年3月期第3四半期	30,519	2.4	1,113	△3.0	1,204	△0.9	858	23.7

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 534百万円 (△27.7%) 23年3月期第3四半期 738百万円 (-%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	18.62	-
23年3月期第3四半期	28.47	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	45,269	30,718	67.6
23年3月期	44,660	30,336	67.7

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 30,618百万円 23年3月期 30,239百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	-	2.50	-	2.50	5.00
24年3月期	-	2.50	-		
24年3月期(予想)				2.50	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

### 3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,000	△0.3	900	△17.6	1,030	△16.6	1,300	△2.0	43.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名） 、除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報（その他）に関する事項 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

24年3月期3Q	30,860,000株	23年3月期	30,860,000株
24年3月期3Q	702,689株	23年3月期	699,997株
24年3月期3Q	30,158,776株	23年3月期3Q	30,164,789株

#### ※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	3
四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) セグメント情報等 .....	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
(6) 重要な後発事象 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災や電力供給不足の影響に加え、欧州の債務危機などを背景とした世界経済の減速や円高の長期化など、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢のなかで当社グループは、「CSR（企業の社会的責任）活動の更なる推進」と、グループ内外との連携強化や成長分野へのチャレンジを中心とした「21世紀型のグループ経営」に努めてまいりました。CSR活動では、輸送における安全の確保に向け不断の取組みを行うとともに、法令順守と環境対策、CD（顧客感動）活動にも継続的に取り組んでおります。事業面では、企業価値増大に向け、バス輸送を中心とした輸送サービスの向上、成長分野としての生活サービス事業の展開を通じて安定した収益の確保に注力してまいりました。結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比489百万円（△1.6%）減の30,030百万円、営業利益は前年同期比42百万円（△3.8%）減の1,071百万円、経常利益は前年同期比25百万円（△2.1%）減の1,179百万円となりました。また、四半期純利益につきましては、連結子会社元役員の不正行為に伴う貸倒引当金繰入額を特別損失として計上したことや、前年同期にエコカー補助金や解約保証金等受入益を特別利益として計上していたこと等により、前年同期比297百万円（△34.6%）減の561百万円となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。なお、売上高、営業利益はセグメント間の内部売上高又は振替高控除前の金額であります。

#### ① 自動車運送

乗合バス部門は、三ノ宮を拠点とする中距離路線の増回等を行い収益路線の強化を図るとともに、自治体からの要請に応じて路線を新設するなど地域の足の確保に努めましたが、震災による出控えや台風上陸の影響などにより前年同期に比べ減収となりました。貸切バス部門は、震災の被災地支援で東北方面へボランティアや自治体職員の輸送を行いました。また、東京ディズニーリゾートツアーの大幅な減少や台風上陸の影響などにより減収となりました。また、タクシー部門は、景気低迷により利用が減少傾向で推移したことに加え、連結子会社の明石神姫タクシー(株)を清算したことにより減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比199百万円（△1.3%）減の15,007百万円となりました。営業損益は、燃料費の増加はありましたものの、人件費、減価償却費等を中心とした固定費を削減したことにより63百万円改善しましたが、233百万円の営業損失となりました。

#### ② 車両物販・整備

車両物販部門は、新車購入補助制度の終了などにより自動車販売台数は減少しましたが、設備機器及びタイヤの販売が好調に推移したことにより増収となりました。また、整備部門は、車検台数は増加しましたものの、バスの車体塗装や事故修理が減少したことにより減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比51百万円（1.1%）増の4,741百万円、営業利益は34百万円（△13.5%）減の223百万円となりました。

#### ③ 業務受託

車両運行管理部門は新規契約の獲得等により、介護部門はデイサービスの稼動がアップしたこと等により増収となりました。経営受託部門は施設の大規模修繕に伴う閉館期間があったことなどにより減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比25百万円（1.2%）増の2,177百万円、営業利益は前年同期比17百万円（8.4%）増の228百万円となりました。

#### ④ 不動産

販売部門は、建物販売戸数は増加しましたものの、分譲地販売区画数が減少したことにより減収となりました。また、特販部門は、建築請負工事が減少したことにより減収となりました。賃貸部門は、既存商業施設等の賃貸料減額がありましたものの、新たに取得した賃貸物件が収入の確保に寄与したことにより前年同期並で推移しました。以上の結果、売上高は前年同期比237百万円（△8.4%）減の2,598百万円、営業利益は22百万円（△2.5%）減の880百万円となりました。

#### ⑤ レジャーサービス

飲食部門は、サービスエリア事業が高速道路の休日上限1,000円制度が廃止になったことの影響を受け減収となりましたが、前連結会計年度に(株)神戸を連結子会社化したことにより、居酒屋事業の収益が寄与し、増収となりました。また、レンタル部門・T S U T A Y Aは、近隣競合店の閉店により太子店の売上が大きく伸びましたものの、相生店が取扱商品を変更したことなどにより前年同期並となりました。しかしながら、旅行部門は、震災の影響により、東京ディズニーリゾートツアーの集客が大幅に減少したことや団体旅行のキャンセル、旅行手控えなどにより減収となりました。また、遊技場部門は、低価格貸玉営業を開始するなど顧客確保に努めましたが、近隣競合店との競争激化により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比162百万円（△2.3%）減の6,845百万円、営業損益は前年同期に比べ58百万円悪化し、16百万円の営業損失となりました。

⑥ その他

売上高は前年同期並の988百万円となりましたが、営業利益は化粧品販売部門における直営店の新規出店費用や農業事業の生産開始に伴う費用の発生などにより前年同期比19百万円(△67.4%)減の9百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期末の総資産は、前連結会計年度末に比べ609百万円増加し、45,269百万円となりました。増減の主なもの、現金及び預金の減少750百万円、不動産事業における賃貸用不動産の取得や自動車運送事業における車庫用地の取得等による有形固定資産の増加1,955百万円等であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ227百万円増加の14,551百万円となりました。増減の主なもの、未払金の増加351百万円、未払法人税等の減少669百万円、借入金の増加660百万円であります。

純資産は、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に比べ381百万円増加の30,718百万円となり、自己資本比率は67.6%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年3月期の業績予想につきましては、平成23年11月8日に公表した予想から変更はありません。今後の事業環境や収益見通し等を見極め、業績予想の修正の必要性があれば速やかに修正を開示いたします。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,108	6,357
受取手形及び売掛金	1,639	1,761
未収運賃	736	529
有価証券	110	120
商品及び製品	373	409
仕掛品	67	153
分譲土地建物	1,078	843
原材料及び貯蔵品	103	100
その他	1,608	1,169
貸倒引当金	△10	△11
流動資産合計	12,815	11,434
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	22,106	23,101
減価償却累計額	△14,923	△15,301
建物及び構築物（純額）	7,183	7,799
機械装置及び工具器具備品	2,580	2,616
減価償却累計額	△2,134	△2,149
機械装置及び工具器具備品（純額）	446	466
車両運搬具	12,553	12,216
減価償却累計額	△10,645	△10,773
車両運搬具（純額）	1,907	1,443
土地	14,944	16,197
リース資産	2,549	3,093
減価償却累計額	△794	△1,183
リース資産（純額）	1,754	1,909
建設仮勘定	16	392
有形固定資産合計	26,253	28,209
無形固定資産		
のれん	62	53
その他	201	205
無形固定資産合計	263	258
投資その他の資産		
投資有価証券	2,910	2,885
その他	2,525	2,650
貸倒引当金	△108	△168
投資その他の資産合計	5,327	5,367
固定資産合計	31,845	33,835
資産合計	44,660	45,269

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,018	1,105
短期借入金	309	1,279
1年内返済予定の長期借入金	461	382
リース債務	490	594
未払金	2,427	2,779
未払法人税等	871	<u>202</u>
事故補償引当金	15	15
賞与引当金	858	522
過年度雑収計上旅行券引当金	13	13
その他	<u>1,801</u>	<u>1,768</u>
流動負債合計	<u>8,267</u>	<u>8,663</u>
固定負債		
長期借入金	1,362	1,131
リース債務	1,348	1,409
退職給付引当金	543	591
役員退職慰労引当金	338	119
負ののれん	6	4
その他	2,457	2,632
固定負債合計	<u>6,056</u>	<u>5,888</u>
負債合計	<u>14,324</u>	<u>14,551</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,235	2,235
利益剰余金	<u>24,573</u>	<u>24,984</u>
自己株式	<u>△415</u>	<u>△416</u>
株主資本合計	<u>29,533</u>	<u>29,943</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	705	675
その他の包括利益累計額合計	<u>705</u>	<u>675</u>
少数株主持分	97	100
純資産合計	<u>30,336</u>	<u>30,718</u>
負債純資産合計	<u>44,660</u>	<u>45,269</u>



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
売上高	30,519	30,030
売上原価	22,860	<u>22,306</u>
売上総利益	7,658	<u>7,723</u>
販売費及び一般管理費	6,545	6,652
営業利益	1,113	<u>1,071</u>
営業外収益		
受取利息	17	16
受取配当金	33	41
持分法による投資利益	9	14
その他	97	112
営業外収益合計	157	184
営業外費用		
支払利息	24	17
固定資産除却損	24	20
その他	16	37
営業外費用合計	66	75
経常利益	1,204	<u>1,179</u>
特別利益		
路線維持費補助金等	33	6
運行補償金	291	104
解約保証金等受入益	457	—
特別利益合計	782	111
特別損失		
固定資産圧縮損	83	1
減損損失	212	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	109	—
貸倒引当金繰入額	<u>21</u>	<u>54</u>
特別損失合計	<u>427</u>	<u>55</u>
税金等調整前四半期純利益	<u>1,560</u>	<u>1,235</u>
法人税等	699	<u>671</u>
少数株主損益調整前四半期純利益	<u>861</u>	<u>564</u>
少数株主利益	2	2
四半期純利益	<u>858</u>	<u>561</u>

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	<u>861</u>	<u>564</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△121	△29
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△1
その他の包括利益合計	<u>△122</u>	<u>△30</u>
四半期包括利益	<u>738</u>	<u>534</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>736</u>	<u>531</u>
少数株主に係る四半期包括利益	2	2

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) セグメント情報等

〔セグメント情報〕

## I 前第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日至平成22年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・ 整備	業務受託	不動産	レジャーサー ビス	計		
売上高								
外部顧客への売上高	15,146	3,266	2,120	2,558	6,862	29,953	566	30,519
セグメント間の内部売 上高又は振替高	60	1,423	30	278	144	1,937	406	2,344
計	15,206	4,689	2,151	2,836	7,007	31,891	972	32,864
セグメント利益又はセグ メント損失(△)	△296	257	210	902	42	1,116	28	1,145

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備等を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,116
「その他」の区分の利益	28
セグメント間取引消去	△31
四半期連結損益計算書の営業利益	1,113

## II 当第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日至平成23年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・ 整備	業務受託	不動産	レジャーサー ビス	計		
売上高								
外部顧客への売上高	14,947	3,336	2,144	2,303	6,706	29,438	592	30,030
セグメント間の内部売 上高又は振替高	59	1,404	32	295	139	1,932	395	2,328
計	15,007	4,741	2,177	2,598	6,845	31,370	988	32,358
セグメント利益又はセグ メント損失(△)	△233	223	228	880	△16	1,081	9	1,090

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	<u>1,081</u>
「その他」の区分の利益	9
セグメント間取引消去	△19
四半期連結損益計算書の営業利益	<u>1,071</u>

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

当社は、平成24年2月9日開催の取締役会において、子会社の設立及び会社分割により、旅行事業及び貸切バス事業といった観光関連事業を中間持株会社によって経営管理する体制に移行するための事業再編を行うことを決議いたしました。

本事業再編の目的、流れ、設立する子会社の概要(予定)、今後のスケジュール等につきましては、適時開示「中間持株会社を用いた旅行事業及び貸切バス事業再編に関するお知らせ」(平成24年2月9日付)に記載の通りです。

(訂正前)



## 平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月9日

上場会社名 神姫バス株式会社 上場取引所 大  
コード番号 9083 URL <http://www.shinkibus.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上杉 雅彦 (TEL) 079 (223) 1243  
問合せ先責任者 (役職名) 企画部長 (氏名) 永井 勝浩  
四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日 配当支払開始予定日 -  
四半期決算補足説明資料作成の有無: 無  
四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	30,030	△1.6	1,065	△4.3	1,174	△2.5	612	△30.5
23年3月期第3四半期	30,519	2.4	1,113	△3.0	1,204	△0.9	880	26.9

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 584百万円 (△23.1%) 23年3月期第3四半期 760百万円 (-%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	<u>20.31</u>	-
23年3月期第3四半期	<u>29.20</u>	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	<u>45,381</u>	<u>30,835</u>	<u>67.7</u>
23年3月期	<u>44,723</u>	<u>30,403</u>	<u>67.8</u>

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 30,735百万円 23年3月期 30,305百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	-	2.50	-	2.50	5.00
24年3月期	-	2.50	-	-	-
24年3月期(予想)	-	-	-	2.50	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

### 3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,000	△0.3	900	△17.4	1,030	△16.4	1,300	△6.7	43.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名） 、除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報（その他）に関する事項 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

24年3月期3Q	30,860,000株	23年3月期	30,860,000株
24年3月期3Q	702,689株	23年3月期	699,997株
24年3月期3Q	30,158,776株	23年3月期3Q	30,164,789株

#### ※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項 .....	3
四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) セグメント情報等 .....	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
(6) 重要な後発事象 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災や電力供給不足の影響に加え、欧州の債務危機などを背景とした世界経済の減速や円高の長期化など、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢のなかで当社グループは、「CSR（企業の社会的責任）活動の更なる推進」と、グループ内外との連携強化や成長分野へのチャレンジを中心とした「21世紀型のグループ経営」に努めてまいりました。CSR活動では、輸送における安全の確保に向け不断の取組みを行うとともに、法令順守と環境対策、CD（顧客感動）活動にも継続的に取り組んでおります。事業面では、企業価値増大に向け、バス輸送を中心とした輸送サービスの向上、成長分野としての生活サービス事業の展開を通じて安定した収益の確保に注力してまいりました。結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比489百万円（△1.6%）減の30,030百万円、営業利益は前年同期比47百万円（△4.3%）減の1,065百万円、経常利益は前年同期比30百万円（△2.5%）減の1,174百万円となりました。また、四半期純利益につきましては、エコカー補助金や解約保証金等受入益を計上しました前年同期に比しまして268百万円（△30.5%）減の612百万円となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。なお、売上高、営業利益はセグメント間の内部売上高又は振替高控除前の金額であります。

#### ① 自動車運送

乗合バス部門は、三ノ宮を拠点とする中距離路線の増回等を行い収益路線の強化を図るとともに、自治体からの要請に応じて路線を新設するなど地域の足の確保に努めましたが、震災による出控えや台風上陸の影響などにより前年同期に比べ減収となりました。貸切バス部門は、震災の被災地支援で東北方面へボランティアや自治体職員の輸送を行いました。東京ディズニーリゾートツアーの大幅な減少や台風上陸の影響などにより減収となりました。また、タクシー部門は、景気低迷により利用が減少傾向で推移したことに加え、連結子会社の明石神姫タクシー(株)を清算したことにより減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比199百万円（△1.3%）減の15,007百万円となりました。営業損益は、燃料費の増加はありましたものの、人件費、減価償却費等を中心とした固定費を削減したことにより63百万円改善しましたが、233百万円の営業損失となりました。

#### ② 車両物販・整備

車両物販部門は、新車購入補助制度の終了などにより自動車販売台数は減少しましたが、設備機器及びタイヤの販売が好調に推移したことにより増収となりました。また、整備部門は、車検台数は増加しましたものの、バスの車体塗装や事故修理が減少したことにより減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比51百万円（1.1%）増の4,741百万円、営業利益は34百万円（△13.5%）減の223百万円となりました。

#### ③ 業務受託

車両運行管理部門は新規契約の獲得等により、介護部門はデイサービスの稼動がアップしたこと等により増収となりました。経営受託部門は施設の大規模修繕に伴う閉館期間があったことなどにより減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比25百万円（1.2%）増の2,177百万円、営業利益は前年同期比12百万円（5.9%）増の222百万円となりました。

#### ④ 不動産

販売部門は、建物販売戸数は増加しましたものの、分譲地販売区画数が減少したことにより減収となりました。また、特販部門は、建築請負工事が減少したことにより減収となりました。賃貸部門は、既存商業施設等の賃貸料減額がありましたものの、新たに取得した賃貸物件が収入の確保に寄与したことにより前年同期並で推移しました。以上の結果、売上高は前年同期比241百万円（△8.5%）減の2,598百万円、営業利益は22百万円（△2.5%）減の880百万円となりました。

#### ⑤ レジャーサービス

飲食部門は、サービスエリア事業が高速道路の休日上限1,000円制度が廃止になったことの影響を受け減収となりましたが、前連結会計年度に(株)神戸を連結子会社化したことにより、居酒屋事業の収益が寄与し、増収となりました。また、レンタル部門・T S U T A Y Aは、近隣競合店の閉店により太子店の売上が大きく伸びましたものの、相生店が取扱商品を変更したことなどにより前年同期並となりました。しかしながら、旅行部門は、震災の影響により、東京ディズニーリゾートツアーの集客が大幅に減少したことや団体旅行のキャンセル、旅行手控えなどにより減収となりました。また、遊技場部門は、低価格貸玉営業を開始するなど顧客確保に努めましたが、近隣競合店との競争激化により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比162百万円（△2.3%）減の6,845百万円、営業損益は前年同期に比べ58百万円悪化し、16百万円の営業損失となりました。



⑥ その他

売上高は前年同期並の988百万円となりましたが、営業利益は化粧品販売部門における直営店の新規出店費用や農業事業の生産開始に伴う費用の発生などにより前年同期比19百万円(△67.4%)減の9百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期末の総資産は、前連結会計年度末に比べ657百万円増加し、45,381百万円となりました。増減の主なもの、現金及び預金の減少750百万円、不動産事業における賃貸用不動産の取得や自動車運送事業における車庫用地の取得等による有形固定資産の増加2,004百万円等であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ225百万円増加の14,545百万円となりました。増減の主なもの、未払金の増加351百万円、未払法人税等の減少671百万円、借入金の増加660百万円であります。

純資産は、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に比べ432百万円増加の30,835百万円となり、自己資本比率は67.7%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年3月期の業績予想につきましては、平成23年11月8日に公表した予想から変更はありません。今後の事業環境や収益見通し等を見極め、業績予想の修正の必要性があれば速やかに修正を開示いたします。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,108	6,357
受取手形及び売掛金	1,639	1,761
未収運賃	736	529
有価証券	110	120
商品及び製品	373	409
仕掛品	67	153
分譲土地建物	1,078	843
原材料及び貯蔵品	103	100
その他	1,608	1,169
貸倒引当金	△10	△11
流動資産合計	12,815	11,434
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	22,148	23,143
減価償却累計額	△14,923	△15,303
建物及び構築物（純額）	7,225	7,839
機械装置及び工具器具備品	2,580	2,616
減価償却累計額	△2,134	△2,149
機械装置及び工具器具備品（純額）	446	466
車両運搬具	12,553	12,216
減価償却累計額	△10,645	△10,773
車両運搬具（純額）	1,907	1,443
土地	14,965	16,218
リース資産	2,549	3,093
減価償却累計額	△794	△1,183
リース資産（純額）	1,754	1,909
建設仮勘定	16	442
有形固定資産合計	26,316	28,320
無形固定資産		
のれん	62	53
その他	201	205
無形固定資産合計	263	258
投資その他の資産		
投資有価証券	2,910	2,885
その他	2,458	2,528
貸倒引当金	△40	△46
投資その他の資産合計	5,327	5,367
固定資産合計	31,907	33,946
資産合計	44,723	45,381

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,018	1,105
短期借入金	309	1,279
1年内返済予定の長期借入金	461	382
リース債務	490	594
未払金	2,427	2,779
未払法人税等	871	<u>199</u>
事故補償引当金	15	15
賞与引当金	858	522
過年度雑収計上旅行券引当金	13	13
その他	<u>1,798</u>	<u>1,765</u>
流動負債合計	<u>8,263</u>	<u>8,656</u>
固定負債		
長期借入金	1,362	1,131
リース債務	1,348	1,409
退職給付引当金	543	591
役員退職慰労引当金	338	119
負ののれん	6	4
その他	2,457	2,632
固定負債合計	<u>6,056</u>	<u>5,888</u>
負債合計	<u>14,319</u>	<u>14,545</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,235	2,235
利益剰余金	<u>24,640</u>	<u>25,102</u>
自己株式	<u>△415</u>	<u>△416</u>
株主資本合計	<u>29,600</u>	<u>30,060</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	705	675
その他の包括利益累計額合計	<u>705</u>	<u>675</u>
少数株主持分	97	100
純資産合計	<u>30,403</u>	<u>30,835</u>
負債純資産合計	<u>44,723</u>	<u>45,381</u>

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
売上高	30,519	30,030
売上原価	22,860	<u>22,312</u>
売上総利益	7,658	<u>7,718</u>
販売費及び一般管理費	6,545	6,652
営業利益	1,113	<u>1,065</u>
営業外収益		
受取利息	17	16
受取配当金	33	41
持分法による投資利益	9	14
その他	97	112
営業外収益合計	157	184
営業外費用		
支払利息	24	17
固定資産除却損	24	20
その他	16	37
営業外費用合計	66	75
経常利益	1,204	<u>1,174</u>
特別利益		
路線維持費補助金等	33	6
運行補償金	291	104
解約保証金等受入益	457	—
特別利益合計	782	111
特別損失		
固定資産圧縮損	83	1
減損損失	212	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	109	—
特別損失合計	405	<u>1</u>
税金等調整前四半期純利益	<u>1,582</u>	<u>1,284</u>
法人税等	699	<u>669</u>
少数株主損益調整前四半期純利益	<u>883</u>	<u>615</u>
少数株主利益	2	2
四半期純利益	<u>880</u>	<u>612</u>

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	<u>883</u>	<u>615</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△121	△29
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△1
その他の包括利益合計	<u>△122</u>	<u>△30</u>
四半期包括利益	<u>760</u>	<u>584</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>758</u>	<u>582</u>
少数株主に係る四半期包括利益	2	2

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

[セグメント情報]

I 前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・ 整備	業務受託	不動産	レジャーサー ビス	計		
売上高								
外部顧客への売上高	15,146	3,266	2,120	2,558	6,862	29,953	566	30,519
セグメント間の内部売 上高又は振替高	60	1,423	30	282	144	1,942	406	2,348
計	15,206	4,689	2,151	2,840	7,007	31,896	972	32,868
セグメント利益又はセグ メント損失(△)	△296	257	210	902	42	1,116	28	1,145

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,116
「その他」の区分の利益	28
セグメント間取引消去	△31
四半期連結損益計算書の営業利益	1,113

II 当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物販・ 整備	業務受託	不動産	レジャーサー ビス	計		
売上高								
外部顧客への売上高	14,947	3,336	2,144	2,303	6,706	29,438	592	30,030
セグメント間の内部売 上高又は振替高	59	1,404	32	295	139	1,932	395	2,328
計	15,007	4,741	2,177	2,598	6,845	31,370	988	32,358
セグメント利益又はセグ メント損失(△)	△233	223	222	880	△16	1,075	9	1,085

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	<u>1,075</u>
「その他」の区分の利益	9
セグメント間取引消去	△19
四半期連結損益計算書の営業利益	<u>1,065</u>

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

当社は、平成24年2月9日開催の取締役会において、子会社の設立及び会社分割により、旅行事業及び貸切バス事業といった観光関連事業を中間持株会社によって経営管理する体制に移行するための事業再編を行うことを決議いたしました。

本事業再編の目的、流れ、設立する子会社の概要(予定)、今後のスケジュール等につきましては、適時開示「中間持株会社を用いた旅行事業及び貸切バス事業再編に関するお知らせ」(平成24年2月9日付)に記載の通りです。